SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL　平成 27 年度文部科学省指定　スーパーグローバルハイスクール

SGH 通信

R1.06.07　No.1

高知県立高知西高等学校
〒780-8052　高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号
TEL　088-844-1221／FAX　088-844-4823
URL:http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/

グローバル探究Ⅰ（1 年）の取組

第１回～第３回グローバル探究Ⅰ　ガイダンス及びグループ作り

第１回は、４月 16 日（火）に実施しました。１年生にとって初めてのグローバル探究Ⅰの授業では、SGH 事業で育てたいグローバルリーダーとはどんな人かや、この１年を通してどのようなことを学ぶことができるのかについて、考えました。

第２回は、４月 17 日（水）に、ワークショップ「コンセンサス～月～」を行いました。月で遭難したときに必要なものについて、個人で考えた時とグループで考えた時で、どちらがより NASA の人が考える妥当な答えになるかを比較しました。多くのグループが、より NASA の答えに近いものになっていました。合意形成の必要性を多くの生徒が実感したようです。

第３回は、４月 24 日（水）に実施しました。前時に行ったコンセンサスを使い、宿題で調べてきた『里山産業論』をもとに、グループで地域の活性化策を考え、発表しました。どのグループも、独創的な活性化策を考えていました。今後、地域創成案を考えていくうえでの、ウォーミングアップといったところです。

第４回　グローバル探究Ⅰ　高知大学准教授石筒覚氏による講話「探究とは？」

第４回は、５月８日（水）に実施しました。高知大学 准教授 石筒覚氏をお招きして、「探究活動とは何か？」「地域を探究する際に大事なこととは？」「大学の先生が考えるグローバルリーダーとは？」などについて講演いただきました。本格的な探究活動のスタートです。

石筒先生には、今後生徒たちが探究する際にサポートしてもらう、講師の方々についても紹介をしていただき、どの地域を探究するか、どの講師にサポートしてもらいたいかについて、生徒たちは一生懸命考えていました。

第５回グローバル探究Ⅰ「職業人講話」

５月 22 日（水）のグローバル探究Ⅰの授業では、10 名の企業人の方を講師としてお招きし、地域ごとに８教室に分かれて講話をしていただきました。

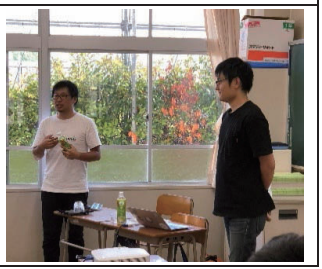
探究活動における、「情報の収集」のプロセスになります。

【授業のねらい】

1　地域で課題解決に取り組む方々の話をもとに、その方がどのような人間関係の中で課題解決に取り組んでいるのか、についての情報を獲得する。

2　聞いた話について、質問をする。

【講師一覧】

CAFÉ AYAM 代表 白鳥　恵利子　氏 株式会社龍河洞みらい マーケティングユニットマネージャー 中村　大輔　氏	道の駅なかとさ 取締役　駅長 高橋　大武　氏	梼原町役場 産業振興課 立道　斉　氏	特定非営利活動法人　土佐山アカデミー 事務局長 吉冨　慎作　氏 ディレクター 佐竹　祐次郎　氏
			

株式会社わらびの 代表取締役 畠中　智子氏	有限会社丸共味噌醤油醸造場 ４代目　ママ女将 竹中　佳生子　氏 特定非営利活動法人　暮らすさき 事務局長 大﨑　緑　氏	大野見七面鳥生産組合 組合長 松下　昇平　氏	特定非営利活動法人　日高わのわ会事務局 事務局長 安岡　千春　氏

１時間目は講話を聴き、２時間目は
グループで質問事項を作成し、
講話の内容について深く理解することができました。

【講師の方から…】

生徒の皆さんが、一生懸命に私に併せてくれている姿に、とても感動しました。素直でかわいい子たちですね。すがすがしい気持ちになりました。

生徒の皆さんに感謝です。

SGH 通信

高知県立高知西高等学校
グローバル探究Ⅰ（１学年）の取り組み
令和元年 7 月 19 日　発行

第６、７回グローバル探究Ⅰ「地域の情報を整理する」職業人講話のまとめ

５月 22 日（水）のグローバル探究Ⅰの職業人講話について、講話を聴いたグループに分かれ、講話の内容について、KJ 法を用いてまとめていきました。５人の班を作りその班で作業をしましたが、どの班も独自性の出たまとめとなっていました。どの班もしっかり議論ができていた証です。

【KJ 法のスタート　まだ白紙です】

【ポストイットに思いついたことをどんどん書いていき・・・】

【意見をグループ化】

【さらに、まとめたもの同士のつながりも考えます】

講師自身についてと、講師の地域での取り組みについてまとめました。グループでまとめたら、個人でまとめます。後日、講師の方に個人でまとめたものをコピーして送りました。どの講師の方も、よく講話を聴いてくれていて、よく理解してくれている、良い疑問も持ってくれているとほめてくれました。

第８回　グローバル探究Ⅰ「地域の情報を整理する」職業人講話の自分事ワーク

５月 22 日（水）のグローバル探究Ⅰの職業人講話について、今度は「参考にしたい講師の生き方や考え方、取り組み」について考えました。各自の学びをクラスの皆とシェアしあいました。

第９、１０回　グローバル探究Ⅰ「地域の情報を整理する」まとめの発表

これまでまとめてきた資料をもとに、講話での学びを発表しました。９回目の授業は発表の資料作り、１０回目に発表をしました。どの班も、しっかりと学んだことを資料を基に説明することができており、期待を上回るすばらしい発表会になりました。この中でも、みんなの評価が高かった班は、８月 23 日（金）の県内リサーチで、講師の方々に代表で発表してもらいます。

【発表資料及び発表原稿の作成】

【発表風景】

１学期は「探究とは何か？」「情報の収集と情報のまとめ方」について学習してきました。

情報のまとめ方としては、順位付けや KJ 法を利用したまとめを実践してきました。２学期からは、実際に地域創生案「地域をよくするために、私ならこうする！」というアイデアを見つけていく作業になります。みんなで楽しく、真剣に取り組みましょう。

県内リサーチ

８月 23 日（金）８：30

トレーニング室にてS.H.をした後行先ごとにバスに乗って出発します。

※　筆記用具やメモ用紙等、また行先によっては別に必要なものがあります。

※　まだまだ暑いので、タオル等を持参してください。

	行先
1	龍河洞Café Ayam
2	道の駅なかとさ
3	椿原町役場
4	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー
5	集落活動センター美良布
6	須崎市立市民文化会館
7	大野見保健福祉センター
8	日高村社会福祉センター

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL　平成 27 年度文部科学省指定　スーパーグローバルハイスクール

SGH 通信

R1.6.7 No.1

高知県立高知西高等学校
〒780-8052　高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号
TEL　088-844-1221／FAX　088-844-4823
URL:http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/

グローバル探究Ⅱ（2 年生）の取組

第１回グローバル探究Ⅱ　「授業ガイダンス」

４月１１日（木）、第１回グローバル探究Ⅱの授業ガイダンスが行われました。

「これからの社会に求められる人材とは、主体的、能動的に生涯学び続けられる人」

具体的には、自分が何を知っていて、できるのかを自認し、知っていることやできることをどう使うのか、使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るのか、それを考える手法を身に付けるのがグローバル探究Ⅱです。世界で何が起こっているのか、私たちができることは何なのか、調べて、考えて、行動して、ディスカッションして、文章や口頭で発表する。Deep な取り組みが始まります。

第２回グローバル探究Ⅱ「専門家の体験を知る」

４月１８日（金）、高知大学国際連携推進センター、センター長の新納宏先生を講師にお招きして「地域も元気にする国際協力」という題名でお話を伺いました。

JICA で長年ご活躍されてきた新納先生の体験談や高知県が行っている国際協力についてお話いただきました。現在、地球上では、温暖化、砂漠化、生物多様性の減少、大気汚染、貧困、テロ、干ばつ、沈みゆく島国、紛争、難民問題、超高齢化の進行、女性の人権問題など多様な問題が存在します。その問題を地球に住む私達全員の問題として考え、協力し合い解決しようと、2015 年 9 月に、ニューヨークの国連本部で採択されたのが、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」です。その前にも、「Millennium Development Goals(ミレニアム開発目標)」が採択されて、発展途上国の問題解決に向けて努力してきましたが、SDG s では発展途上国も先進国の問題も解決し持続可能な発展を目指しています。世界中の問題解決に、高知県が持つビニールハウスの技術、防災の技術、植物の保全技術が輸出されている事例もお伺いしました。そこから、新納先生がおっしゃった「自分の課題は、世界の課題」という言葉通り、一見自分の住んでいる場所とは関係のない問題のようでも、実は自分たちと繋がっていることが実感できました。

【生徒の感想から】

今年、私達が主に探求テーマとして設定していく SDGs とはなんなのか私は良く理解しておらず、国際社会の課題なのかな？という認識をしていました。しかし、新納先生のお話をお聞きして、先進国も、発展途上国も同じ目標を立て、同じ方向へ進み取り組んでいくためのものだということが分かりました。同じ目標を立て進んでいくことの重要性が具体的な数字、事例とともに表されたことでとても分かりやすかったです。また、国際協力の必要性についての話がとても印象に残りました。先進国である私達がなぜ国際協力をする

必要性があるのかの意見のパワーポイントで〝途上国の発展が日本の発展につながる〟という意見が私達が今後行っていく探求活動のキーポイントになるのではないかと思いました。

日本が経験の宝庫だと知って驚いた。よくよく考えてみれば先進国になっているのだからそれまでの大事な経験があるのに私自身全く気がつかなかったし意識もしていなかった。地域と海外とでは共通することがあまりないと思っていた。難民や飢餓等は関係がそんなにないし津波や地震は他の国にはなかったりする、だから海外と日本の共通の問題を解決するのは難しいと思ってたけどこれまでつちかった経験を相手に伝えたり教えることは出来る。それが途上国の人達にとっては発展に繋がることだから日本に来てまで学んで帰りたいんだなと思った。四国と言う小さい地域でも途上国の手助けとなることがたくさんあるのだと知って感動した。今回の講演は自分の中で新しい考え方や知識を得ることができたのでとても勉強になったと思う。

先日、新納宏先生のお話を聞きました。新納先生は自分と世界がどうやって繋がっていくべきなのかをお話してくれました。国際的な問題は少数の国の間で起こることですが、地球規模の問題は国境がないので私たちに直接関係してくる問題であると教えてくださいました。それは私たちが原因をつくっているし、改善しようともしています。例えば飢餓問題では年間約 500 万人以上の子供たちが飢えによって死んでしまいます。原因として食料を運搬する設備が整っていなかったり、食料を買うだけのお金を持っていなかったりと様々です。解決するために支援物資を直接届けに行ったり寄付したりして少しずつ良くしようとしています。ですが、飢餓で死んでいく子供たちはまだまだいます。「地球を良くするのも人間、悪くするのも人間」なので、良くしていくために何ができるのかをグローバル探究で考えていきたいと思います。

第３・４回グローバル探究Ⅱ「課題設定」

５月１０日（金）からは、新しいグループで、SDGｓの背景となった社会問題を調査し始めました。

前回の講演後、これから課題解決に取り組みたいＳＤＧｓの達成目標に対するアンケートが取られました。その結果、同じ解決を目指す、同じ志の生徒が一つのグループに集結しました。４名のこのグループで、１年間探究を行います。ＳＤＧｓ（持続可能な開発のための国連の開発目標）の１６９のターゲットからグループで取り組むターゲットを一つに決定し、選んだターゲットを解決する方法をＫＪ法を用いて考えました。21 日は、前回の授業を受けて疑問文を作成し、調べ学習により問題の具体化を行いました。その際、CiNii などを活用し先行研究を活用する方法を学びました。

【生徒の感想から】

去年よりも目標がわかりやすく提示されて班員みんなで協力して頑張ることが出来た。目標についてわからないことが多々あったのでそこを重点的にこれから４人で助け合って解決していこうと思った。やる気も、自分でもわかるくらい去年より出ていて、G 探が楽しみだなと思えた。目標が難しいからこそみんなで協力して素敵な解決策を見出していきたい。

１年の頃よりも規模が大きくなって難しい言葉や内容が増えてきたという印象を持ちました。 でも、グループ内の４人で話し合うことによって色々な考えを知ることができ、なおかつ、いいところをミックスできよりいい考えに持っていくことができたので、これから探求をしていくなかで、スムーズに話し合いを進めることができるかなと思いました。 私は管理役になったのですが、みなさんが積極的に話してくれたおかげで、自分もよく司会ができるようになりました。 いいスタートを切れたので、このまま世界のために日本のためになにができるのかを考えて行きたいと思います。

私たちの班は飢餓について探求していくことになりました。アフリカの地域において飢餓が進んでいるというのは私の思い込みでアジアでも少なからず飢餓で苦しんでいる人達がいるということを知りました。２歳でわずか５キロという小さな子や赤ちゃんも空腹で泣くことすらできずにいる、たくさんの人達が食べ物も十分に得ることが出来ずにいる状態にあることに驚き戸惑いと同時に探求を通し問題を掘り下げ、自分が少しでも力になりたいと思いました。

SGH 通信

R1.7.19

高知県立高知西高等学校
グローバル探究Ⅱ（２年）の取組

第５・６回グローバル探究Ⅱ「問題の絞り込みと具体化」

５月３１日（金）のグローバル探究Ⅱでは、グループで探究することになったＳＤＧｓの 169 のターゲット目標が作られるに至った社会問題の背景や、問題点、なぜこの探究を行おうと考えたのかを調べたり考えたりしながら、パワーポイントに整理していきました。

６月 14 日(金)は、第８回の途中経過の発表に向け、他者に伝わりやすい発表とは、具体的にどのような発表なのかをＫＪ法で考えました。後半では、分かりやすいスライドの作り方や発表に向けての計画の立て方などの講義を受けました。

相手に伝わりやすい発表のために必要な要素を、自分たちの班発表にも取り入れて発表！！

第７回グローバル探究Ⅱ「論理的な発表に向けて（準備）」

６月２１日（金）のグロール探究Ⅱは、大学教授に探究内容の途中発表するため、発表に向けた最終の内容整理や、発表スライド、原稿作りを行いました。

発表直前、自分たちのグループの中で、もしくは担当の先生を前に、真剣なリハーサル。

実際に説明しようとすると、内容がよくわかっていなかったり、話とパワーポイントを動かすタイミングが難しかったりと、課題がたくさんでてきました。また、発表後の質疑応答で、大学の先生からどのような質問がでるのかも、予想したりしました。

第８回グローバル探究Ⅱ「探究過程発表会」

６月２８日（金）のグローバル探究Ⅱは、高知大、高知工科大から８名の大学教員をお迎えし、各クラスで班ごとに、現時点での探究内容と夏休みに行う調査活動について発表し、アドバイスをいただきました。

自分たちの探究内容を１グループが３分で発表しました。助言者の先生からは鋭い質問が出され、応答も求められました。当日は、どの班も準備した内容を落ち着いて発表できました

【ご参加いただいた先生方】

	名前	大学	所属
１Ｈ	田中壮太　先生	高知大学	農林海洋科学部
２Ｈ	森牧人　先生	高知大学	農林海洋科学部
３Ｈ	上條良夫　先生	高知工科大学	経済・マネジメント学群
４Ｈ	中村直人　先生	高知工科大学	経済・マネジメント学群
５Ｈ	佐竹泰和　先生	高知大学	教育学部
６Ｈ	塩崎俊彦　先生	高知大学	地域協働学部
７Ｈ	森田美佐　先生	高知大学	教育学部
海外	岩佐和幸　先生	高知大学	人文社会学部

【高知大学　教育学部　佐竹泰和　先生】

生徒の皆さんはしっかりと探究目標をかかげ、課題を設定していたので今後の展開が楽しみです。テーマが大きいので、実際にどのように調べていくか（論点の絞り込み）がカギになりそうですね。今後、探究活動を進めていく中でおカになれることがあれば、お気軽にお問合せくださいね。

【高知大学　人文社会科学部　岩佐　和幸　先生】

３チームともこれからが勝負という感じでしたが、面白い視点で、私も勉強させていただきました。タイのチームは、テーマ設定をデータ（タイ人が行きたい地域ランキング）に基づいて行っている点は、とても評価できます。インバウンドを検討する際には、①タイ人のニーズ、②観光客受け入れ地での取り組み、③移動手段を検討する必要がありますね。

【高知大学　農林海洋科学部　田中　壮太　先生】

解決策として提案された紛争の停止ですが、もう少し深堀してほしいところです。紛争を停止することも重要ですが、実際には現実的とはいいにくい。それなら紛争が起こっている状況で、イエメンで食糧を増加させる方法を考える方向もあります。イエメンの全人口や過去 100 年の状況を調べてみて、イエメンの紛争の理由や状況を知ること、また、自給自足のような自ら輸出入のできるものを探る必要もありますね。

令和元年　G探Ⅱ　タイトル一覧

班番号	タイトル	班番号	タイトル		
101	中国の水質汚染とその現状	304	アフリカで貧困状況におかれている子供たちを救うために	509	Female discrimination
102	イエメンの活性化	305	世界のトイレ事情	509	女性差別
103	スラムの現状を克服する	307	「なぜテロが起きるのか～カブールの現状～」	510	世界の教育格差についての現状
103	スラム地域に住む人々の解放と社会進出	308	LGBTの人たちが安心してくらせる世界	601	日本のゴミの排出量の削減について
104	アフリカの教育問題	309	交通問題の改善と発展	602	貧困
105	人身売買の被害者を軽減するためには	310	「質の高い教育をみんなに」	603	フィリピン、マニラのドント地区のスラムに住む人々の経済力向上を考える
106	5歳未満児の死亡率	401	エチオピアの矛盾食品廃棄と飢餓について	604	「極度の貧困を終わらせる！」
107	2030年まで世界の妊産婦の死亡率を10万人あたり70人未満に削減する	402	「2025年までに、日本の道路交通事故による死傷者を半減させる」	605	中央アフリカにおける貧困問題･栄養危機の解決を考える
108	伝熱病を根絶させるために	403	未就学率が高い国の現状改善のために	606	サブ･サハラ･アフリカ地域の教育差別
109	外来種の駆逐を止めろ!!□	404	エリトリアの中学校の進学率を上げるためには。	607	難民の小学生
110	洪水の被害減少について考える	405	発展途上国の教育状況の改善	608	南スーダンの教育格差について考える
201	教育でアフリカを豊かに	406	貧困状態におけるメキシコの子供たちの食事について	609	先進国と発展途上国の教育格差
202	アジアでの海洋汚染防止･減少のために	407	イエメンの女性差別の現状	610	ミャンマー人身売買解決に向けて
203	オセアニア諸国の海面上昇について	408	世界中に安全な水とトイレを	701	2030年までに食品廃棄物を大幅に削減する
204	栄養失調で苦しんでいる人たちへ	409	飢餓をなくそう	702	LGBT問題
205	日本と外来種	410	虐待から子供を守る方法を考える	703	日本国内における児童に対する身体的虐待について
206	アルコール依存にならないぞん！	501	ブラジルの森林減少を食い止めるためには	704	パリ島での海洋教育
207	マダガスカルの飢餓【近くの先進国から食糧を提供してもらうことは不可能か】	502	教育格差	705	トイレでハイチの人々を元気に
208	2030までに飢餓を撲滅。すべての人々、特に貧困層および、幼児を含む脆弱な立場にある人々が1年中安全かつ栄養のある食糧を十分に得られるようにする。	503	アフリカにおける飢餓問題の解決策を考える	706	2030年までに貧困状態にある人を半減させる。
209	「アフリカの水に関する生態系の保護･回復について」	504	ニホンウナギの密漁と乱獲	707	日本のLGBT理解を深め住みやすい環境をつくる
210	持続可能な森林の形成と森林破壊の阻止	505	持続可能な観光産業を	708	南スーダンの女性への性的暴力
301	食品廃棄物を減らそう～what can we do～	506	子供の肥満　低体重について	シンガポールA	高齢者の健康寿命を伸ばそう
302	女性器切除の危険性	507	まだ助かる マダガスカル！	シンガポールB	高知県の義務教育の英語教育について
303	私たちの考えるスラムの改善策と課題	508	アフリカ･サブサハラの貧困と教育	タイ班	食文化によるインバウンド誘致

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL 平成 27 年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール

SGH 通信

R1.6.7 No.1

高知県立高知西高等学校
〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号
TEL 088-844-1221／FAX 088-844-4823
URL:http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/

グローバル探究Ⅲ（３年生）の取組

「リサーチペーパー（個人論文）」作成開始！

新年度に入り三年生は、下記のどちらかのテーマを設定して、個人でリサーチペーパーを執筆することになりました。

パターン①：1、2 年次に探究した内容を深める。
パターン②：自身の興味に基づいた各分野の内容。

また、普通科理型クラスは2000字以上、普通科文型・英語科クラスは4000字以上という、字数規定のもと執筆を行っていきます。

【第 1 回グローバル探究Ⅲ】

4月12日（金）に実施された本年度最初のグローバル探究Ⅲの授業では、グローバル教育部長より、リサーチペーパー作成の手順、日程等について説明がありました。生徒たちのリサーチペーパー作成に取り掛かる気持ちができたようです。

【生徒の感想】

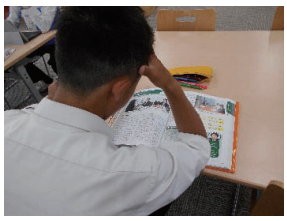
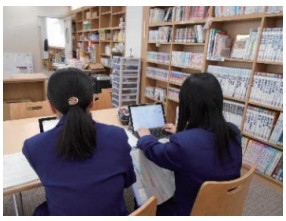
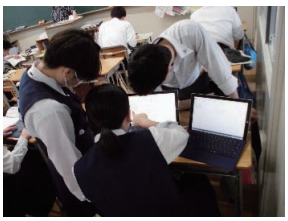
テーマ設定の理由は、個人的理由だけでなく、社会的理由も必要と言うことを知りました。テーマ設定は時間がかかると予想されるので、授業以外の時間も考えてみます。

今回のガイダンスを通して、次に何をしたらよいかがわかり、目標が見えてきました。将来のことにもつながる大切な授業なので、がんばって取り組みたいです。

今までは班の人と協力して進めてきたけれど、これからは一人でやらなければいけないので時間配分に気をつけたいです。表現の仕方なども学びたいと思います。

【第2回～第4回グローバル探究Ⅲ】

4月17日(水)～5月8日(水)に実施されたグローバル探究Ⅲの授業では、タブレットPC、図書室等を活用して、リサーチペーパー作成のための資料収集を行いました。これまでの先輩たちのリサーチペーパーから、調べ方を参考にしたり、リサーチペーパー執筆に取り掛かる生徒もいました。

【第5回～第6回グローバル探究Ⅲ】

「リサーチペーパー（個人論文）」構想発表！

5月22日(水)～5月29日(水)では、生徒たちがタブレットPCを使用し、授業担当の先生方に対して、リサーチペーパーの構想発表を行い、アドバイスをもらいました。先生方との面談を通して、執筆中に悩んだことのヒントを得、各々のリサーチペーパー作成の見通しを立てることができたようです。生徒たちの作成するリサーチペーパーが楽しみになってきました。

【生徒の感想】

調べれば調べるほど、自分が知らなかった新たな情報を知ることができ、今後、どう言うふうに展開していくのかとても楽しみになりました。

この活動を通して、目標を明確にすることが大切だと感じた。リサーチペーパーでは、序論がしっかりしていると、本論、結論がしっかりと書ける。これは、受験にもつながる考え方だと思う。

これまでの活動を通じて感じたことは、必要な情報を整理して論文を作っていくことの大変さです。何を切り取って組み立てていくかによって、内容が薄くなったり、情報が多すぎてまとまらなくなったりするので、その力が重要だと思います。

SGH 通信

R1.7.19

高知県立高知西高等学校

グローバル探究Ⅲ（３年）の取組

「リサーチペーパー（個人論文）」完成に向けて！

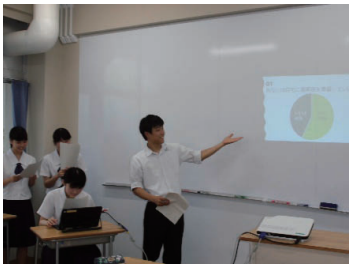
【第7回～第9回グローバル探究Ⅲ（＋グローバルエデュケーションⅡ＋課題論文）】

6月12日（水）・6月19日（水）・6月26日（水）の授業では、リサーチペーパー完成に向けて、執筆活動に本腰を入れてきました。自分で決めたテーマにそって順序立ててまとめることは難しく、リーサーチペーパーの構成や展開に戸惑うこともありましたが、図書館にある先輩のリサーチペーパーを参考にしたり、指導担当の先生方に自らアドバイスを求めたりしながら、完成に向けて徐々に見通しを立てていきました。

また、7月4日（木）開催の「高知西高校 SGH 国際シンポジウム」に参加予定の探究チームは、多くのディスカッションを通して、意見交換を行い、探究内容を深める作業を熱心にしていました。シンポジウム1週間前からは、発表資料の作成・検討や英語の抑揚の練習を何度も行い、発表内容が的確に伝わるよう熱心に練習しました。国際シンポジウムでの成果発表が楽しみです。

グローバル探究Ⅲの
ディスカッションの様子

グローバルエデュケーションⅡの
ディスカッションの様子



国際シンポジウムにむけて
リハーサル風景

「リサーチペーパー（個人論文）」完成！

【第 10 回グローバル探究Ⅲ（＋グローバルエデュケーションⅡ＋課題論文）】

7月3日（水）の授業は、リサーチペーパーの締め切り最終日でした。前回の授業で、仮提出したものを、今回は加筆・修正を行い、3年生281名のリサーチペーパーが完成しました。生徒たちは、各々、探究内容を深め、整理し、それを文章にすることの難しさを活動を通して感じたようです。また、その中で、やり遂げた充実感も感じているようです。探究活動を通して、新たな疑問を見つけた生徒や、新たな課題に気づいた生徒たちもいて、今後も、探究を継続していこうとする意識の向上が見えました。

【生徒の感想:リサーチペーパーを作成して】

この活動を通して感じたことは、問題解決を行う上では、様々な視点から捉えることが大切だということです。1つの観点からでは見えなかったものが見えるようになると、問題点が増えたり、解決の糸口が見えました。さらに、目的からそれないように何回も確認することで、適した解決策になることを知れました。

昨年に比べ、一人でリサーチペーパーを作成することが大変でした。途中で何度もアドバイスを受けて、じっくり考えることで完成させることができよかったです。もっと深く知りたいと思います。

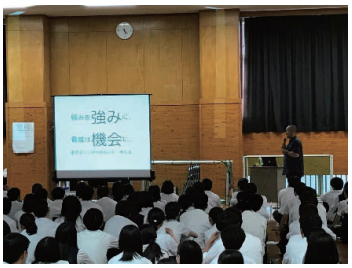
自分が好きで調べ始めたことでしたが、理解や知識の量が少ないことがわかりました。そうやって調べていくうちに前よりも興味がわき、楽しくリサーチペーパーをつくることができました。

リサーチペーパーの文章をその時はうまく作成したつもりでも、違う日に見ると不自然な部分が多く、推敲することが大切だと感じました。自分がわかる文章でなく、だれが読んでもわかる文章にすることが難しかったです。

【リサーチペーパー(個人論文)の探究テーマ(抜粋)】

普通科・理型	普通科・文型	英語科
リサーチペーパー（論文）探究テーマ	リサーチペーパー（論文）探究テーマ	リサーチペーパー（論文）探究テーマ
臨床検査技師とＡＩ	日本に仮想通貨を普及させるには	何故日本人は英語が苦手なのか
人間が生態系に与える悪影響を減らすには	スポーツを活かした地域創生	Understand Me!!～異文化理解の必要性～
持続可能な海洋資源の開発に向けて	「方言」の浸透	OPEN THE DOOR（日本人の英語との向き合い方）
外来種問題について	動物愛護法と私たちにできること	日本の男女参画社会を実現するために
救急救命士の存在意義と未来	東京オリンピックの経済効果	宗教理解とグローバル化
現在のいじめ対策は十分なのか	王政復古クーデターと土佐藩の動向について	周産期医療における課題と現状
ジェネリック医薬品の問題	『草木染め』で産地廃棄は減らせるか	世界の宇宙開発と日本の宇宙開発の格差
今地震に対して自分たちができること	伝統工芸品の衰退とその現状～課題解決に向けて～	批判的思考力を養うには
教師人口の減少～部活動と授業の質～	道の駅の重要性～道の駅の経済効果について～	声優による被災地での開催について
一人暮らしの食品ロス対策	高知県のサンゴ礁について	イップス患者を助ける

「進路探究学習 （WALK PLAN）」



【第11回グローバル探究Ⅲ】

7月10日(水)は、NPO法人維新隊ユネスコクラブ理事長の濱松敏廣さんをお招きし、講演会「自分ＳＷＯＴ分析」を実施しました。濱松さんのお話の中で、自分では弱みだと思っていることを強みに変えるヒントを見つけたり、会社の人事担当者の立場となって友達の自己分析を聞いたりと、視点を変えることで自分の価値観が変化し、アプローチ方法が変わることを実感できたようです。

【講演後の生徒感想】

グループで話し合ったとき、自分の言ったことに対して周りの人がつっこんでくれたので、新しい自分の良い所や悪い所を知ることができました。また、口に出して相手に伝えることで発言した内容をより実感することでき、自信をもって話すことができるようになりました。

平成 27 年度指定スーパーグローバルハイスクール

研究開発実施報告書 第５年次

令和２年３月発行

発　行　高知県立高知西高等学校
編　集　高知県立高知西高等学校グローバル教育部
住　所　〒780-8052
　　高知県高知市鴨部２丁目５番 70 号
電　話　088-844-1221
ＦＡＸ　088-844-4823
E-mail　nishi-h@kochi.ed.jp
ＵＲＬ　http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/mt/
印刷・製本　川北印刷株式会社